

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成30年1月5日
1. 初期支援(はじめのかかわり)	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	6人	人	人	6人

前回の改善計画

前回の改善計画にもあげたが、利用して慣れてきた段階で、個々の利用者の様子や対応について、もっと話し合う機会を作る。また、関わり方に対して、スタッフ間でまとまっていないことや方向性が定まっていない部分もある為、日々の様子や本人との会話の中で得た情報を、しっかりと記録に残し、スタッフ間で意見交換する場をもっと増やし、よりよい支援につなげていくように、引き続き取り組んでいく。また、生活面等についても情報だけでなく、今後の支援に活かせるようにしていきたい。

前回の改善計画に対する取組み結果

初回の利用開始前に本人への面談・家族や医療機関から情報収集し、ミーティングやフェースシートにて情報を共有しているが、情報共有だけで終わってしまっている事もあり、どう対応していくのか方向性を話したりすることや、慣れてきた段階でも、話し合いをする機会が少ない。もっと、対応や支援のあり方をスタッフ間で話し合い、都度、対応を見直しし、よりよい支援につなげていかなければならない。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	3	3			6
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?		6			6
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いで声掛けや気遣いができていますか?		6			6
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?		6			6

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

①利用前に面談等で、家族や本人、また、本人を知る方から利用者の情報を集め、ミーティングやフェースシート等の記録を活用し開始前に分かる情報は共有している。不足の分は、利用中の情報などや追々聞き出していき等し、スタッフ間で補っていくよう考えている。②本人や家族が、現在困っていることや必要としていることを確認し、それを最優先に考え、個々にあった利用方法やサービス、ケア等を提供している。ケアの提供後は、記録に残し、次の支援につなげている。③慣れていない時期は、本人が不安にならないように声をかけたり、無理強いしないように対応している。通いサービスに導くために、訪問からはじめたり体験利用をし様子をみたりと個々によって工夫をしている。また、多数の職員で関わるのではなく、慣れるまでは対応するスタッフを固定したりする等、配慮もしている。④送迎時や連絡帳、電話やメールを活用し、家族への報告をこまめにおこなっている。情報交換をして共有することで、不安を少しでも解消できるよう、日々努めている。また、家族等が困っていること等、早急な改善や対応ができるよう努めている。

できていない点

200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること

①生活面や習慣、馴染み等に関しても情報収集しているが、支援に活かせていないこともある。また情報共有だけで終わっている部分もあり、利用者への対応がスタッフによって異なってしまう、できているできていないがみられる。スタッフにも不安がある為、もっとその情報を元にどう対応していくのか話し合いをしていく必要がある。②認知症で自分の想いを伝えられない方等は、家族のニーズ中心になっている部分も多い。また本人が必要な事、家族が必要な事が全て一致する事はない。そのため、優先的な支援のあり方が家族の思いやニーズ中心になっていることもある③利用前に情報を共有しているが、関わり方に対してスタッフ間でまとまっていないことがあり、個々のスタッフによって気遣い、声かけが異なり、気遣いが不足していることもある。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

初回の利用開始前に情報の共有だけでなく、どう対応していくのかを話し合う機会をもっと作っていく。細かい部分は難しいかもしれないが、ある程度の対応の方法や方向性についてスタッフ間で共通認識を持ち、対応や支援に活かせるようにしていきたい。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成31年1月5日
2.「～したい」の実現 (自己実現の尊重)	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	5人	1人	人	6人

前回の改善計画	引き続きケアマネジャーのモニタリングに利用者の担当スタッフが同行し情報収集したり、定期的に家族や利用者にも声をかけ担当者会議を開催し、家族や利用者の希望や想いを確認できるようにしていく。また、目先の課題や問題点を中心にしやすいため、利用者の「～したい」という思いや目標に対して実現できるよう、状態に応じてケアプランを見直ししていく。スタッフが利用者の「～したい」という思いに対して、関わりやアプローチができるよう話し合いし、利用者の支援を見直ししていきたい。
前回の改善計画に対する取組み結果	スタッフの人数上なかなかモニタリングには同行できていない。ただ、モニタリングの内容を細かく記録し情報を伝えたり、サービス担当者会議には各担当のスタッフが同席したり意見を聞くようにしている。その中で、利用者の「～したい」という思いに対して、関わりやアプローチができるよう利用者の支援を都度見直している。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標(ゴール)」がわかっていますか?		6			6
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?		6			6
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?		3	3		6
④	実践した(かかわった)内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?		2	4		6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①利用者や家族との話を元にケアプランを作成し、ケアプランにて目標を明確にしており、そのケアプランの内容は全スタッフが確認できる状態である。②利用者や家族との話を元にケアプランを作成し、ケアプランにて目標を明確にしており、そのケアプランの内容は全スタッフが確認できる状態である。また担当者会議に本人や家族も参加するよう促し、参加できない場合も意見をもらうようにしている。利用者のその時々にあった想いやケアの内容を理解し対応している。③利用者から「～したい」という目標や希望はなかなか言葉ででてこないこともあるが、その人の習慣や行動から、「～したい」を考えながら、少しでも近づけるように、日々関わるようケアや支援をするよう努めている。④利用者個々によって、まだまだ活かしている人、活かしていない人というが、各担当を中心に問題点や疑問点等、スタッフ間で情報交換し、ミーティングやカンファレンスにて利用者への対応を随時、振り返りや見直しをしている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
①～③ 利用者によってできている人、できていない人というのが現状である。利用者によっても声を発する方はわかりやすいが、本人の意向が掴みにくい方もいるのが現状である。また、目先の課題や問題点へのアプローチが先になってしまっている場合も多い。その中で、本人の希望や意思ではなく、家族の思いや意向が優先されている部分も多い。④実践した事でも何でも、振り返りや話をできているかという点とまだまだできていないことも多く、次の対応に活かしていないこともある。またどうしていくのか結論がでないこともあり、結局、その時々個々のスタッフの判断になっていることもある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
引き続き、本人の目標や意向については、ケアマネジャーと利用者の担当者が中心となり、日常の会話やモニタリング・サービス担当者会議にて声を拾っていき、少しでも利用者の目標や意向に近づけるようにしていきたい。また、実践した事でも何でも、振り返りや話をできていないことも多く、次の対応に活かしていないこともあるので、振り返りができるよう、話をする機会を増やしていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成31年1月5日
3. 日常生活の支援	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	人	5人	1人	人	6人

前回の改善計画	自宅と施設利用時とを連動して考えれていない部分があるので、すぐに通いサービスで対応するのではなく、訪問サービスを最大限に活用し、自宅での生活を支援、アプローチできるようにしていく。そのなかで、個々の利用者の生活環境を理解していきたい。
前回の改善計画に対する取組み結果	利用者によっては訪問サービスを利用し、自宅での生活を支援しているが、介護度が高くなったり認知症が進んでくると、家族からの要望もあり、つい通いサービスを中心に利用してもらうことが多いのが現状である。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?			6		6
② 本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?		6			6
③ ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?		6			6
④ 本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?		6			6
⑤ 共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?		6			6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①フェースシート・ケース記録・本人・家族・スタッフ間の情報にて生活環境を理解することが出来ていることもある。②極力、本人のペースに合わせてながら、無理強いせず、かめやん家に対応可能な介護の提供は工夫しながら対応できている。また、本人の日々の状況や体調に応じて対応をかえたり見直しをしている。③本人の表情や行動、しぐさ等により感じ取った本人の状態について、スタッフで気づいたことは共有し話し合いをしている。④異変に気づくことができるようスタッフ間で情報交換、共有している。その中で、必要に応じて看護師や医師へも相談し、都度、対応している。⑤その時々本人の状況に合わせて、気分転換の為に外出へ誘ったり、体調が優れない時は、泊まりサービスにて対応する等、サービスを臨機応変に提供している。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
①生活習慣を10個以上と言われると把握できていない方もいるのが現状である。その利用者の心身の状態・環境のなかで取り組めていない方もいる。②～⑤その都度、即時的には完璧には出来ていないこともある。個々のスタッフの経験や気づきにも差があり、気づかないこともある。また、スタッフ間での話し合いが不十分なこともあったり、すぐに対応が出来ずに、後手になってしまうこともある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
まだまだ自宅と施設利用時とを連動して考えれていない部分がある。介護度が高くなってきたり認知症の進行があると、家族の希望で通いサービスや泊りのサービスで対応することが増えるが、少しでも自宅で過ごす時間が増えるよう、訪問サービスを最大限に活用し、自宅での生活を支援、アプローチできるようにしていきたい。そのためにも、本人との日常の会話や家族から情報を聞き、生活環境をより理解できるようにしていきたい。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成31年1月5日
4. 地域での暮らしの支援	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	人	6人	人	人	6人

前回の改善計画	在宅が基本のサービスのため、通いサービス利用に対応したケアや支援をするのではなく、利用者の思いや生活スタイルを理解し、訪問サービスを最大限に活かし、ケアや支援していく。そのためにも、家族の理解や協力も必要のため、どうすれば、長く在宅生活が継続できるのかを一緒に考えていきたい。
前回の改善計画に対する取組み結果	3と同様、まだまだ通いサービスが中心のケアや支援のあり方になっている方も多くなっている。家族や本人と話をしたり連絡帳やモニタリング等で様子を確認したりしているが、利用者の生活スタイルや自宅での様子が見えにくい方もいるのが現状である。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?		6			6
② 本人と、家族・介護者や地域との関係が切れぬように支援していますか?		6			6
③ 事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?		1	5		6
④ 本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?		1	5		6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①全てにおいて理解や把握はできていないこともあるが、モニタリングや送迎時、日々の関わりの中で、家族や利用者とは話し、得た情報をもとに理解はできている部分もある。②利用者により地域との関わりは差はあるが、ホームで抱えこまないように、家族に任せれるところは任せたりと対応している。行事の参加を促したり、地域の方とは、つどいや地域の喫茶やサロン等の行事により関わられるよう支援している。自身でも地域の行事や体操等に参加されている方もいる。③訪問の対応が必要な方は、自宅での生活がある程度見えており把握している部分もある。また、利用者によっては、様子伺いの訪問が増え、把握できてきたケースもある。モニタリングの内容を細かく記録し以前より自宅での様子がわかるようにはなっている方もいる。④地域の病院や薬局、訪問理美容等のサービスは活用していたり、地域住民の協力等で利用者を支えたりとしている部分もある。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
①利用者によって分かっていく所もあり差があるのが現状である。在宅が基本であるにも関わらず、ホームでの利用に対応したケアや支援をしてしまっていることもある。②ホームから遠い方ほど、本人の地域での活動が把握できておらず支援できていないことも多い。利用者によっては、かめやん家での生活が中心となってしまう方もおられ、ホームで抱え込んでしまっている部分もある。③実際に利用者が自宅でのように過ごしているのか、自宅での様子が見えにくい方もいる。利用者によっては家族からの情報でしかほとんど知ることができなく、どのように自宅で過ごしているのか生活スタイル等わからない方もいる。そのため、もっと家族から情報を得られるようにしていかないといけない。④ホーム長は把握できている部分はあるかもしれないが、現場のスタッフ間では、本人の各地域の民生委員や地域資源等の理解や把握はできていないこともある。また、利用者の日々のケアや関わりが中心となり、スタッフ自身、そこに目が届いていない部分や知ろうとしていないこともある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
3と同様、まだまだ自宅と施設利用時とを連動して考えられていない部分があり、家族の希望等で通いサービスや泊りのサービスで対応することが増えているが、少しでも自宅で過ごす時間が増えるよう、訪問サービスを最大限に活用し、自宅での生活を支援、アプローチできるようにしていきたい。そのためにも、本人との日常の会話や家族から情報を聞き、自宅での過ごし方や生活スタイル、地域との関係性等をより理解できるようにしていきたい。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成31年1月5日
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	人	6人	人	人	6人

前回の改善計画	本人と地域の元々の関わりを知り、地域や家族にも協力していただけるよう、ともに支えることができるよう、アプローチをしていく。あくまで在宅サービスの為、泊まりや通いサービスで対応ばかりするのではなく、訪問サービスを最大限活用し、支援していく。また、利用者の声や思いを記録に残し、スタッフ間で共有し、状態やニーズに合わせた支援を提供していく。
前回の改善計画に対する取組み結果	介護度が低い方ほど、地域との関わりも多く、ホームからアプローチをしなくても関わったり協力していただいたりとされている。介護度が高くなるにつれて、ホームの泊まりや通いサービスの利用頻度が高くなり、地域との関わりが徐々に希薄となっている。そのため、まだまだ地域の方の協力を得るために、アプローチはできていないことも多い。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?		6			6
② ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?		6			6
③ 日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?		6			6
④ その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?		6			6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①かかりつけ医やリハビリ等の医療機関、訪問看護、薬剤師、訪問歯科、訪問理美容、福祉用具等を活用し在宅生活の継続を支えている。直接的な介護は、ホームが担う形になっているが、ご近所や家族の協力を引き出すよう働きかけている方もいる。利用者によってはうまく地域資源を活用し在宅生活を支援できている方もいる。②利用者や家族と話しをし、ニーズに応じてその人に合った利用方法が妥当に提供出来ていると思う。③ミーティングや申し送り、カンファレンスにて、スタッフ間で共有している。④出来る限りは行えている。利用者の状態により、家族や利用者とは相談しながら、また急な利用や利用の変更にも対応し、その時々にあわせて、可能な限り柔軟に対応している。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
①医療機関や薬剤師、福祉用具等のサービス以外のボランティアや近隣住民、友人、町会、地域の自主事業等の、他の資源の活用ができていないことが利用者によってはある。②本来であれば、もっと本人の意向や希望に沿った対応が望ましく、家族の意向に対して本人がどう感じているのか分からない部分もある。そのため、家族の意向やホームの都合も考慮したサービスの提供になってしまっている部分もある。たとえば、本人はもっと自宅にいたいのに、家族のニーズから訪問サービスではなく通いサービスや泊まりサービスを提供していたりとする。③大きな変化や目立つ行動などは話し合いをし共有できているが、スタッフがふと口に出した小さな事や変化に対しては話し合いが不十分であり共有できていない。④利用者によっては本人のニーズより家族のニーズに合わせた支援になっている方もいる。そのためその時々本人の状態やニーズに早急に対応できていないこともある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
本人と地域の元々の関わりを知り、地域や家族にも協力していただけるよう、ともに支えることができるよう、アプローチをしていく。また、利用者の大きな変化や目立つ行動だけでなく、小さな変化等に対しても話し合いが不十分な事もあり共有できていないので、もっと、スタッフ間で話し合いをしていく必要がある。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成31年1月5日
6. 連携・協働	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか？	人	6人	人	人	6人

前回の改善計画	昨年度に引き続き、その他のサービス機関の担当者を交えての会議を開催し、意見交換していく。運営推進会議においても地域住民の参加を促し、シフトの調整をしスタッフにも参加する機会を増やしていく。また、職場体験を今年度で終わらせることの無い様、中学校とも連携し継続していきたい。その中で、つどいや職場体験を通じて地域住民にかめやん家や福祉に興味を持っていただく機会を作っていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	サービス担当者会議の開催は増えており、また、各サービス機関の担当者にも参加し意見交換している。参加できないときは照会にて意見を頂いている。運営推進会議は、地域住民の参加を促し参加人数は増えたが、スタッフは人数の兼ね合いで参加できていない事が多い。職場体験は継続して受け入れの実施が出来ている。つどいや職場体験を通じてかめやん家や福祉について知っていただく機会を作っている。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか？		6			6
② 自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？			6		6
③ 地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか？		6			6
④ 登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？		6			6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①少しずつではあるが、医師や看護師、福祉用具の担当者等にも参加を促し、開催することが出来ている。出席できない時には、照会にて意見をいただいている。薬剤師や歯科等には、薬の変更時や必要に応じて、随時、意見をいただいている。②ホーム長中心に町会の会議や防災会議等に参加するようにしている。防災についての会議へは防災担当スタッフも参加する機会が増えてきている。③地域開催の避難訓練や防災等の取り組み、夜警への参加。保育園児との交流会の開催、小学校の行事、地域のふれあいサロン・喫茶等の交流の場に参加している。④定期的にかめやん家のつどいを開催し、近隣の住民が参加している。また、日頃の挨拶だけでなく言葉のやりとりもあり良い雰囲気づくりや交流ができています。保育園や小学校の行事等への参加もしている。中学校の職場体験の受け入れも実施している。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
①医師の参加は難しく照会にて意見をいただいている。また他のサービス機関(薬局や歯科等)には相談等はしているが参加を促したりできていない。②なかなかシフト上や日常の業務等もあり、スタッフの参加は難しいことが多い。③出来る限りは参加しているが、スタッフの人数、ホームの利用者の対応や行事等の予定等があり参加できないこともある。④つどい等で高齢者は来る事が多くなっている。中学校の職場体験で事業所にきたり、ホームから小学校や保育園の行事に参加する事はあるが、日常的に子ども達がかめやん家にくることはほとんどない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
昨年度に引き続き、事業所のスタッフ以外の担当者を交えて、サービス担当者会議を開催できるようアプローチし、様々な視点から利用者を支援できるよう意見交換する機会を作っていく。運営推進会議においては、スタッフがなかなか参加する事ができていないため、シフトを調整し、スタッフが参加する機会を増やしていく。また、職場体験も引き続き、中学校と連携し継続していきたい。つどいや職場体験を通じて地域住民にかめやん家や福祉に興味を持っていただく機会を作っていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成31年1月5日
7. 運営	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	6人	人	人	6人

前回の改善計画	引き続き、管理者を中心に意見を言いやすい環境を作っていく。ミーティングも意見を言いやすいよう進めかたも工夫していく。ボランティアの受け入れ等については、職員自身が必要性や知識等、ボランティアへの理解がまだまだ低いので、勉強会等を通じて高めていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	事業所としてポイント事業の登録はしているが、受け入れはできていない。また、ボランティアの受け入れに対しての理解を深めるための勉強会も出来ていないのが現状である。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか?		6			6
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?		6			6
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?		6			6
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	2	4			6

できている点	200字程度で、できていること、その理由を記入すること
①日頃よりコミュニケーションをとり、情報や意見を交換し、その都度、ホーム長にも相談し、ミーティング等で意見を出すことができている。②苦情や意見は、ホーム長を通じて、すぐに当事者に確認し対応している。③地域の方からの意見や苦情等、都度、早急に対応している。④毎月、かめやん家のつどいを開催し、「防災について」「健康について」「介護保険について」等の講座の実施や物づくり、催し物を開催している。また、AEDの設置や福祉避難所の協定(行政、町会、施設間の三者協定)を結んでいる。ホーム長とスタッフが町会の防災リーダーとして会議の出席や夜警や訓練等、都度、参加をしている。	

できていない点	200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること
②③意見や苦情等にしてもホーム長・ケアマネジャーが窓口となり対応しているので、報告書の記録として結果などで聞いて終わったりすることが多い。苦情についてスタッフ間での話し合いができていない。スタッフが利用者から言われたことを苦情として受け止められておらず認識が甘く見過ごしてしまっていることもある。④地域からのボランティアの受け入れは単発的なことが多く受け入れが少ない。スタッフ間のボランティアの受け入れに対する認識がまだまだ低い。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
引き続き、管理者を中心に意見や声を出しやすい環境を作っていく。ミーティングや様々な会議等でも意見を言いやすいよう進めかたも工夫し、スタッフや家族・利用者・地域から出た意見を運営に反映し、開かれた施設を目指していく。スタッフ間でボランティアへの理解がまだまだ低いので、理解を深める事ができるよう勉強会等を実施し、ボランティアの受け入れに繋げていきたい。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成31年1月5日
8. 質を向上するための取組み	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	6人	人	人	6人

前回の改善計画

職場内研修については、まだまだスタッフ間で意識の差があるため、全スタッフが必要性を理解し参加できるよう目指していく。その中で、ただ出席するだけでなく、それぞれが自分の意見や考えを言えるような雰囲気作りや勉強会の内容にしていきたい。外部研修も、スタッフのシフト上、参加出来ないことが多いので、シフトの調整をし、参加したスタッフはホームにて伝達研修を行い、施設としての理解へ結びつけていきたい。ヒヤリハットについては、毎月集計し、月に1回は話し合える場を作り、今後の対応や大きな事故につながらないように取り組んでいく。地域連絡会や他施設との連絡会等については、スタッフの参加はほとんど出来なかったが、1回、経験し内容を深めることが出来るようにしていく。

前回の改善計画に対する取組み結果

職場内研修はほぼ全スタッフ参加できている。外部研修も極力参加していただき、学んだ事を自施設に活かせるよう伝達研修をするようにしている。ヒヤリハット等のリスクマネジメントについては、集計し検証が必要な事については話し合いをしているが、その時だけになっており継続できていない事もある為、都度話し合いをし、見直しや検証していく必要がある。地域連絡会は主に防災についての会議にホーム長と担当スタッフが参加している。他のスタッフに周知できていない事もある為、ミーティング等で周知していくようにする。他施設との連絡会等についてはスタッフの人員上、ホーム長以外は参加できていない。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	3	3			6
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか		5	1		6
③	地域連絡会に参加していますか		4	2		6
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか		6			6

できている点

200字程度で、できていること、その理由を記入すること

①②二ヶ月に1回、職場内で研修を実施しており、それ以外にも必要に応じて実施することがある。また、外部の講師を招いたり、外部の研修にスタッフが参加したら、参加後は、職場内にて伝達研修を実施している。法人として資格取得の為の勉強会も開催している。③ホーム長、防災担当のスタッフが地域の防災の集りに参加している。他の施設との連絡会へはホーム長が参加し必要な情報はスタッフへ伝えている。④担当者を置き、ヒヤリハットや事故についてまとめたものを、月1回定期的に話し合いを実施している。また、事故についても、都度、検証して対応している。

できていない点

200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること

①職場外研修はスタッフの人員上、行けない事もある。②各スタッフ間の意識の差もみられている。③なかなか複数の参加が難しくホーム長が参加していることが多く、スタッフの参加はできていないことも多い。④毎月1回、周知し検証しているが、スタッフ間によって意識や危機感にも差があり、また、その時だけになり継続できていないこともあり不十分などもある。限られた時間の中で、難しいところもあるが、もっと深く皆で話し合い共通認識しケアに取り組むべきである。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

職場内研修については、ただ出席するだけでなく、それぞれが自分の意見や考えを言えるような雰囲気作りを目指し、より内容のある勉強会にしていきたい。外部研修も、スタッフのシフト上、参加出来ないこともあるが、シフトの調整をし参加できるようにしたい。参加したスタッフはホームにて伝達研修を行い、施設としての理解へ結びつけ新たな取り組み等に活かしていきたい。ヒヤリハットについては、毎月集計し、月に1回は話し合える場を作り、今後の対応や大きな事故につながらないように取り組んでいるが、その時だけになり継続できていない事もある為、都度話し合い、見直しや検証をして、よりよいケアにつなげていきたい。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成31年1月5日
9. 人権・プライバシー	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	6人	人	人	6人

前回の改善計画	スタッフが認知症の方に対して、スタッフの言動や行動が利用者に影響を及ぼすことを理解し、対応する事で、不適切ケアを減らしていく。スタッフ間での会話も周囲に配慮できていないことがあるので、意識する必要がある。出したら元の場所に戻すという当たり前の事を当たり前にするようスタッフ間で注意していく。
前回の改善計画に対する取組み結果	まだまだケース記録を出しっぱなしにしていたりとする事がある。また、フロア内のスタッフ間の会話が他の利用者に聞こえることがあり配慮が足りていない事がある。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	身体拘束をしていない	6				6
②	虐待は行われていない	6				6
③	プライバシーが守られている		6			6
④	必要な方に成年後見制度を活用している		5	1		6
⑤	適正な個人情報の管理ができている	2	4			6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①②基本的に身体拘束、不適切ケアや虐待等についての意識はしっかりとっており、身体拘束や虐待のないケアを行なっている。また、スピーチロック等の不適切ケアについても研修を通じてスタッフ間で話し合いをし理解を深めている。③トイレ等は、本人に合わせ、羞恥心などに配慮し声かけている。入浴時は同姓介助で対応している。④必要な方には対応しているが、現在活用している方はいない。⑤個人のケースや保険証等の個人情報は事務所の鍵つきの棚にて保管している。名前の記載している書類や薬袋はシュレッターにかける等、対応している。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
①②利用者が危険と感じた時やスタッフが忙しくなっているときに、時折、「ちょっと待って。」等のスピーチロックが出てしまうこともある。また、認知症に対しての理解不足の面もあるのか、利用者の言動や行動に対して、言い方がきつくなってしまっていることもある。③⑤フロア内でスタッフの声かけやスタッフ間の申し送りや何気ない会話が他の利用者に聞こえてしまっている事があり、配慮が不足している事がある。またケース類を使用した際、なおすべき所にしまわずフロア等に出しっぱなしになってしまっていることが、時折みられている。④家族がいる方は、どこまで必要なか判断が難しい。本人や家族からの要望があれば動きやすいが、どのタイミングで声をかけて勧めるのかも難しい部分がある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
引き続き、スタッフの言動や行動が利用者に影響を及ぼすことを理解し、対応することや、勉強会を実施し、スタッフ間での介護や対応を振り返り、不適切ケアを減らしていきたい。スタッフ間での会話等も周囲に配慮できていないことがあるので、意識していく。まだまだ利用者のケースを出しっぱなしにしている事もあるため、スタッフ間で注意し減らしていきたい。	